

2020年度 教員配置表

2020年5月1日現在

	文学部				教育学部		生活創造学部		心理相談センター	合計
	国際英語学科	史学 科	心理 学科	日本文化学科	幼児教育学科	児童教育学科	生活文化学科	観光文化学科		
教授	学長 熊谷 園子 1 菱田 信彦 2 ウィリアム・キスチャック 3 4 5 6 7	高津 純也 塩谷 修 原田 晶子	鶴沼 秀行 西川 将巳 橋本(北原) 靖子 田中 裕 松原 由枝 簗下 成子	長崎 靖子 岩崎 利彦 尾見 敦子 眞田 尊光	竹内 啓 近藤 千草 今泉(菅井) 洋子	小山 久美子 内海崎 貴子 田中 聡 向野 光	藤原 昌樹 今井 久美子 大坂 佳保里 高橋 裕子 高山 啓子 永嶋 久美子 渡邊 昭彦	新学長 西川 誠 戸澤 純子 田中 実 丹治 朋子 柳川 悦子		
小計	3	3	6	4	3	4	7	5	0	35
准教授	1 倉林 直子 2 篠田(小泉) 朝子 3 4 5	大西 克典 辻 浩和 松尾(辻) 明日香 中園 有希	桂 瑠以 佐藤 哲康	須山(山名) 順子	江村 綾野 手塚 崇子 野尻 美枝 古屋 朝映子 古山 律子	加藤 美由紀 寺岡 聡志 松本 祐介 矢田 訓子	齋藤 美重子 佐久間 美穂 佐々木 唯 佐藤 真弓	松井 浩		
小計	2	4	2	1	5	4	4	1	0	23
講師	1 松本 修 2 3	橋本 磨美	藤井(松岡) 靖子	伊藤 純 千野 裕子	国谷 直己 佐藤(二村) 郁美	奥田 順也	甲山 恵美 佐瀬(叶内) 茜 築館 香澄	種村 聡子 中山 穂孝		
小計	1	1	1	2	2	1	3	2	0	13
助教	1 マクシム・シャハリン									
小計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
助手	1 2 3				真鍋 可苗		戸田 聡子 原島(依田) 菜那子 平中 菜摘		久保 舞	
小計	0	0	0	0	1	0	3	0	1	5
合計	7	8	9	7	11	9	17	8	1	77

令和2年度 教員の学位・業績等

文学部 国際英語学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
熊谷 園子	国際英語	教授	青山学院大学大学院文学研究科	文学修士	イギリスロマン主義	英米詩	国際文化特講(英米詩)		“Mont Blanc”—Shelleyの汎神論的不可知論, 単著, 川村英文学3号, 1998	シェリーとアイルランド—crisisの意識を巡って, 単著, 英語青年, 第140巻7号, 研究社, 1994	ポール・マルドゥーンとの出会い, 単著, 国文学社, 1994	バイロンとエルギンマーブルス, 単著, イギリスロマン派研究16号, 1992
菱田 信彦	国際英語	教授	筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得退学	修士(文学)	イギリス小説	英米児童文学, 文学批評理論	国際コミュニケーション(イギリス研修)	イギリス文化史(1), (2)	「メアリー・ノートの『小人たち』シリーズにおける女性のリテラシー」, 『Tinker Bell』(日本イギリス児童文学会)59, 43-56, 2014.	『快読「赤毛のアン」』, 彩流社(フィギュール彩15), 2014.	「アクション・リサーチを活用した高等学校における英語プレゼンテーションの学習」, 『川村学園女子大学研究紀要』28(1), 15-31, 2017.	「従順なエルフと抵抗するゴブリン:『ハリー・ポッター』シリーズの魔法種族における価値の逆転」, 『東京女子大学比較文化研究所紀要』78, 59-76, 2017.
W・キスチャック	国際英語	教授	法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻	修士(文学)	シーラ・ワトソン研究	能楽研究	卒業研究(パフォーマンス)	EIA, II (English in Action)	シーラ・ワトソン Rough Answerの試訳及びワトソンの年譜, 川村英文学第8号, 2003年3月	シーラ・ワトソン Brother Oedipus—a story—の試訳, 川村英文学第9号, 2004年3月	シーラ・ワトソン研究 The Black Farm—A Modern Allegory—の試訳, 川村学園女子大学研究紀要第16巻第1号, 2005年3月	シーラ・ワトソン研究—短編 Antigoneの試訳—, 川村学園女子大学研究紀要第17巻第1号, 2006年3月
小泉 朝子	国際英語	准教授	早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学	文学修士	イギリス小説・イギリス文化	英語教育	国際文化特講I	国際コミュニケーション特講IV	「オスカー・ワイルドの『ヴェラ』—イギリスと日本における作品受容と社会的背景」(単)『比較文学』44号, 2002年	『エフェクティブリーディング1』(共)成美堂, 2007年	「ホーソーンとギャスケル—墮ちた女の表象をめぐって」『フォーラム』14号, 23-39, 2009年	『デリダと歴史の終わり』(ステュアート・シム著の翻訳(単)), 岩波書店, 2006年
倉林 直子	国際英語	准教授	津田塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学	修士(文学), MA (History, University of Virginia)	アメリカ史	日米関係史	アメリカ文化史	国際文化特講II	1950年代の日本舞台芸術とアメリカ—1959年アメリカ雅楽公演を中心に—, 『アメリカ太平洋研究』20号, 2020年3月	「日米文化交流をめぐる協調と摩擦 1960年歌舞伎のアメリカ公演を一例として」『アメリカ史研究』第40号, 2017年8月	「ポスト講和期の日米関係と文化—ジョシュア・ローガンの活動を中心に—」『津田塾大学紀要』第49号, 2017年3月	「リチャード・ニクソンのイメージ戦略とその効果」『津田塾大学紀要』第46号, 2014年3月
マクシム・シャハリン	国際英語	助教	オックスフォード大学、マートン・カレッジ、東洋研究所	文学博士(D.Phil.)	東洋研究	国際政治学	日本の政治と国際社会(1)(2)	海外から見た日本(1)(2)	第2回ヨーロッパ日本研究ラウンドテーブル「北東アジア安全保障再考」(イギリス、シェフィールド大学)に参加(平成20年3月)	イギリス日本研究協会年次大会(イギリス、マンチェスター)にて口頭発表(平成20年4月)	日本政治学コロキウム年次大会(イギリス、リーズ大学)にて口頭発表(平成20年9月)	ワークショップ「なぜ(いまだに)日本は重要なのか」(イギリス外務・コモンウェルス省およびシェフィールド大学)において、日本とロシアの関係について報告(平成21年4月)
松本 修	国際英語	講師	早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学	修士(MA in Applied Linguistics, University of Sydney)	第二言語習得研究	外国語教育学、辞書学	言語コミュニケーション特講II	児童英語教育法	Survey of dictionary use among Japanese high school students learning English as a foreign language. 『早稲田大学英語英文学叢誌』45, 2016.	Examining the effects of dictionary instruction on meaning determination of polysemous words. Proceedings of the 17th EURALEX International Congress, 2017.	Computerized dynamic assessment of dictionary use ability. Proceedings of the 18th EURALEX International Congress, 2018.	Evaluating the effectiveness of dictionary training on Japanese English learners' look-up skills. English Language Teaching (In press).

令和2年度 教員の学位・業績等

文学部 史学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
高津 純也	史学	教授	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修了	博士(文学)	中国古代史	中国思想史、中国古文字学	アジア史研究入門(1)	アジア古代文明論	『水経注疏訳注(渭水篇)』共著、財団法人東洋文庫、上巻2008年、下巻2011年	『『尚書』諸篇の成立に関する一考察—戦国諸国における同時並行的な成書について—』、単著、『史学雑誌』第116編11号、2007年	『地下からの贈り物—新出土資料が語るいにしへの中国—』共著、東方書店、2014年	『『荀子』『禮記』引書再考—楚簡本「緇衣」の出現を踏まえ—』、単著、『中國出土資料研究』第16号、2012年
塩谷 修	史学	教授	國學院大學大学院文学研究科(日本史学専攻)博士課程後期(単位取得満期退学)	博士(歴史学)	日本考古学(古墳時代)	博物館学	考古学概論	博物館概論	『前方後円墳の築造と儀礼』(単著)同成社 2014年	『霞ヶ浦の古墳時代—内海・交流・王権—』(単著)高志書院 2018年	(論文)「古代筑波山祭祀への視角」『東国の地域考古学』六—書房 2011年	『日本玉作大観』(共著)吉川弘文館 2004年
原田 晶子	史学	教授	エランゲン大学博士課程修了	Dr. Phil.	西洋中世史	地域文化研究(ドイツ)	西洋史演習(1)	西洋史研究入門(1)	Die Symbiose von Kirche und Stadt im Spätmittelalter. Das bürgerliche Gemeinschaftsbewusstsein und Stiftungen an die Pfarrkirchen in der Reichsstadt Nürnberg (Studien zur Geschichtsforschung)	「西洋中世都市の市壁と都市のアイデンティティ」『歴史学研究』972号(2018年)	「宗教改革導入にともなう死者追悼儀礼廃止に対する請願—カトリック共同体からプロテスタント共同体への移行の狭間で—」神崎忠昭編『断絶と新生: 中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』慶応義塾大学出版会、2016年、185-205頁	「中世末期ドイツ都市における聖母マリア賛歌「サルヴェ・レジーナ」寄進の社会的意義—帝国都市ニュルンベルクを例に—」『比較都市史研究』第31巻第2号、2012年、29-41頁
大西 克典	史学	准教授	ピサ高等師範学校博士課程修了	博士(歴史学)ピサ高等師範学校	近世イタリア史		西洋史演習(2)	西洋史概説(1)	「近世イタリア都市工業と啓蒙改革—18世紀トスカーナにおける絹織物工業保護」『史学雑誌』126編8号(2017年8月)	「18世紀トスカーナ大公国における統一土地台帳編纂計画とその挫折: ピエトロ・レオポルド期の改革路線対立」『西洋史学』258号(2015年)	(動向論文)「18世紀イタリアにおける土地台帳編纂研究の射程—ヨーロッパ政治の中の啓蒙改革」『地中海学研究』40号(2017年)	「18世紀トスカーナ大公国における軍事費—啓蒙改革とヨーロッパ政治」『立正史学』123号(2018年)
辻 明日香	史学	准教授	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修了	博士(文学)	西アジア史		アジア史概論(2)	アジア史研究入門(2)	(共著)“Wearing the Blue Turban Again: Christian Reconversions in Mamluk Egypt,” in Katsumi Fukasawa et al. (eds.), Conflict and Reconciliation among Confessions and Religions, London: Routledge, 2017.	(共著)“Preliminary Report on Four saints from the Mamluk period: Hadid, Yuhanna al-Rabbān, Barsauma al-Uryan, and ‘Alam,” in Paola Buzi et al. (eds.), Coptic Society, Literature and Religion from Late Antiquity to Modern Times: Proceedings of the Tenth International Congress of Coptic Studies, Rome, September 17th-22nd, Louvain: Peeters, 2016.	『コプト聖人伝にみられる十四世紀エジプト社会』山川歴史モノグラフ、山川出版社、2016年。	「11世紀後半—14世紀下エジプトにおけるキリスト教徒集落の消長」『日本中東学会年報』第31-2号(2016年3月)。
辻 浩和	史学	准教授	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了	博士・人間・環境学	日本中世史	芸能史	日本史研究入門(2)	日本史概説(1)	『中世の(遊女) 生業と身分』(単著)京都大学学術出版会、2017	『知っておきたい歴史の新常識』(共著)勉誠出版、2017	「新興芸能の流行と貴族社会への定着過程—歴史的観点から」『芸能史研究』210、2015	「室町期芸能史研究の現在」(『歴史評論』767、2014)
中園 有希	史学	講師	東京大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(教育学)	教育学	教科書研究	教育方法学	教育課程論	中園有希「デジタル歴史教科書『mBook』の教授学的特徴について」『学習院大学文学部研究年報』、第63輯、2017年	中園有希「コラム: ドイツの初等学校の女性化と学力低下をめぐる議論」、浅井幸子ほか編著『教師の声を聴く—教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社、2016年	中園有希「近年のドイツにおける教科書開発の動向—小学校算数教科書の比較から」『学習院大学文学部研究年報』、第62輯、2016年	中園有希「ドイツにおける小学校教師の男女比不均衡をめぐる議論の検討」『学習院大学教育学・教育実践論叢』、第2号、2015年
橋本 磨美	史学	講師	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程修了	博士(図書館情報学)	図書館情報学	アメリカ図書館史	図書館概論	図書館制度経営論	『アメリカ連邦図書館立法の歴史—1956年図書館サービス法の成立から2010年図書館サービス技術法への変遷—』(単著)創成社、2020年	アメリカ連邦図書館立法の成立と変遷」(博士論文)、筑波大学、平成28年	「1990年代前半におけるアメリカ連邦政府の図書館政策の展開—LSCAからLSTAへの改正を中心に—」『日本図書館情報学会誌』日本図書館情報学会、Vol.61、No.1、p. 1-17、2015年。	「1996年以降におけるアメリカ連邦政府の図書館政策: 図書館サービス技術法に基づく補助金事業の動向」『日本図書館情報学会誌』日本図書館情報学会、Vol.61、No.4、p. 215-231、2015年。

令和2年度 教員の学位・業績等

文学部 心理学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
鶴沼 秀行	心理	教授	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程(単位取得退学)	博士(教育学)	知覚心理学	認知心理学	心理学統計法	心理学実験(基礎)	【著書】対象の認識における情報の時間空間的統合と知覚的表象の形成, 単著, 早稲田大学出版会, 2013	【著書】改訂版はじめての心理統計法, 共著, 東京図書, 2016	【学術論文】Spatiotemporal integration and contour interpolation revealed by a dot localization task with serial presentation paradigm, 共著, Wiley Blackwell 日本心理学会, Japanese Psychological Research, 2010	【学術論文】Facial features in perceived intensity of schematic facial expressions, 共著, Ammons Scientific, Perceptual and Motor Skills, 2010
西川 将巳	心理	教授	東京大学 医学部 医学科	学士(医学)、学士(文学)	心身医学	脳神経科学、臨床心理学	心身医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)(大学院)	臨床心理学	α -[11C] methyl-L tryptophan-PET as a surrogate for interictal cerebral serotonin synthesis in migraine without aura. (共著), Cephalalgia. 34(3):165-73, Mar, 2014	心身相関の生物学的基礎研究領域の進歩, パニック障害の脳内機構. (単著), 「専門医のための精神科臨床リユミール」第27巻, 中山書店, Aug, 2011	Alterations in brain serotonin synthesis in male alcoholics measured using positron emission tomography. (共著), Alcohol Clin Exp Res. 33(2):233-9, Feb, 2009	認知行動療法の脳科学. (単著), 心療内科 11: 13-18, 科学評論社, Jan, 2007
北原 靖子	心理	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	文学修士	発達心理学	発達臨床	発達心理学特殊講義	生涯発達心理学	(著作)(分担)教育相談—子どもの理解とカウンセリング—, 大学図書出版, 2012	(報告書)(分担)子どもの意思決定能力を育成する支援ツールの開発. 平成26~28年度科学研究費補助金基盤研究(C)報告書, 2017	(論文)(共著)軽度発達障害の思春期支援について考える—二次的障害を予防してゆくために—(2009)川村学園女子大学心理相談センター紀要, 5, 55-68	(プロジェクト研究講演)高齢者支援活動場面の環境づくり—コミュニケーションの視点から—(2015)立命館大学人間科学研究所 インクルーシブ社会研究8, 10-39.
田中 裕	心理	教授	日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(心理学)	生理心理学		生理心理学(文学部心理学科専門科目)	生理心理学特講(大学院心理学専攻専門科目)	Yu TANAKA, Takenobu OHISHI, Etsuko HAYASHI, Rumiko KATO, Hideoki TADA (2013)【共著】Eyeblink as a formative assessment technique for people with profound multiple disabilities Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities Vol. 10, pp. 174.	田中裕(2009b)学習と条件づけと動機づけ【共著】『社会福祉学習双書』編集委員会(編)社会福祉学習双書2009 第11巻 心理学 第1章 第5節 全国社会福祉協議会出版部 pp.25-29.	田中裕(1999)【単著】覚醒水準と瞬目活動 心理学研究 Vol.70 pp.1-8.	田中裕(2002a)【単著】視覚作業休息下における随意性瞬目の効果 川村学園女子大学研究紀要,第13巻 第1号 pp.159-168.
松原 由枝	心理	教授	大正大学大学院人間学研究科臨床心理学専攻修士課程(前大正大学カウンセリング研究所カウンセリング技能修士課程)	博士(文学)	臨床心理学	深層心理学、カウンセリング、芸術療法	臨床心理実習(大学院)	臨床心理学特論(大学院)	心のケアのためのカウンセリング大事典(共著)(培風館, 2005)	ソンディ・テスト—心理臨床に生かす活用法(単著)(培風館, 2009)	カウンセリング心理学(共著)(培風館, 2009)	ソンディ・テストマニュアル(千葉テストセンター, 2011)
養下 成子	心理	教授	筑波大学大学院博士課程医学研究科卒業	博士(医学)	臨床心理学	犯罪心理学	非行・犯罪心理学(学部)	臨床心理面接法特講(大学院)	1. 編集:小田晋, 編集協力:佐藤親次, 森田展彰, 司法精神医学と精神鑑定. pp.107-146 (第IV章.精神鑑定における心理テスト), 医学書院, 平成9年 4月.	養下成子, 小島秀悟, 佐藤親次, 表情認知の精神病理学的研究, 脳の科学, Vol22. 2, pp.177-181, 2000.	養下成子, 森田展彰, 佐藤親次, 浅井義弘, 統合失調症患者における表情認知と社会適応度の関係—能面テスト(Noh Mask Test)を用いて— 社会精神医学雑誌 12(3):253-261,2004.(Minoshita S, Morita N, Satoh S, Asai Y. Relationships between facial expression recognition and social adjustment in schizophrenia. -The Noh mask Test as a social skill assessment- Japanese Bulletin of Social Psychiatry 12(3):253-261, 2004.)	Minoshita S, Morita N, Yamashita T, Yoshikawa M, Kikuchi T, Satoh S, Recognition of affect in facial expression using the Noh Mask Test: Comparison of individuals with schizophrenia and normal controls. Psychiatry and Clinical Neurosciences ,59, 1, 2005, pp.4-10.
桂 瑠以	心理	准教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	博士(人文科学)	社会心理学	教育心理学	社会心理学概論	コミュニケーション論	【著書】挫折と向き合う心理学, 共著, 福村出版, 2020	【著書】新しい教育相談論, 共著, 武蔵野美術大学出版, 2016	【学術論文】インターネットの利用による心理的引きこもりの低減効果の検討—青年期から老年期の世代間比較—, 共著, 日本教育工学会論文誌, 2020	【学術論文】The effect of mobile phone use on communication between parents and children: A panel study examining causality, 共著, Ochanomizu University Global COE Program English Monograph, Proceedings, 2012
佐藤 哲康	心理	准教授	立正大学大学院文学研究科哲学専攻博士後期課程(単位取得満期退学)	修士(文学)	臨床心理学	カウンセリング心理学	青年心理学(学部)	心理療法各論 I (認知行動療法)(大学院)	【分担】教育相談の理論と方法, 会沢信彦(編著), 北樹出版, 2019.	【単著】初任者教師に対するアクティブラーニングを用いた教育相談研修の実践, 川村学園女子大学研究紀要, 第29巻1号, pp.199-206, 2018	【単著】小学生の日常生活と心理的適応—宿泊通学参加後に見られた変化—, 川村学園女子大学研究紀要, 第28巻1号, pp.203-209, 2017	【分担】心理統計の基礎, 松原達哉・楡木満生・田上不二夫(編), カウンセリング心理学ハンドブック[実践編], 金子書房, 2011.
松岡 靖子	心理	講師	名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程(単位取得退学)	博士(心理学)	発達心理学	学校臨床心理学	発達心理学(学部)	臨床心理基礎実習(大学院)	【著書】(分担)学校心理臨床実践, 窪田由紀・平石賢二(編), ナカニシヤ出版, 2018.	【論文】(単著)スクールカウンセラーの教員との連携構築プロセス—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる検討—, カウンセリング研究, 第47巻2号, 67-76, 2014.	【論文】(単著)自傷行為を呈した生徒への常勤型スクールカウンセラーの対応—即時性と連携体制—, カウンセリング研究, 第45巻1号, 51-61, 2012.	【論文】(単著)心理教育プログラムが中学生の相談欲求および相談室イメージに及ぼす影響—ある公立中学校の3年生を対象とした実践から—, 学校心理学研究, 第11巻1号, 3-13, 2011.

令和2年度 教員の学位・業績等

文学部 日本文化学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
長崎 靖子	日本文化	教授	日本女子大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了	博士(文学)	日本語学	日本語史	日本語学	日本語の歴史	〔著書〕『断定表現の通時的研究—江戸語から東京語へ—』、単著、武蔵野書院、2012	〔著書〕『大東急記念文庫所蔵 式亭三馬自筆『雑記』影印と翻刻』、編著、武蔵野書院、2016	『式亭三馬の蔵書に見る唐語関係資料に関して』、単著、『近代語研究』21集、207-224、武蔵野書院 2019	文学作品の教材化に関する一詩論—文学教材「羅生門」の「足踏み」「鴉」から—、単著、『川村学園女子大学研究紀要』第31巻1号、17-26、2020
岩崎 利彦	日本文化	教授	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士前期課程 修了	修士(スポーツ健康科学)	スポーツ社会学		スポーツ(2)	キャリアプランニングⅠ キャリアプランニングⅢ(2)				
尾見 敦子	日本文化	教授	お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化研究科単位取得満期退学	教育学修士	音楽教育学	幼児教育	音楽科教育法	音楽	尾見敦子(2017) ハンガリーの幼稚園・小学校の音楽教育における伝承の歌遊びの意義、川村学園女子大学研究紀要、第28巻、第2号、67-84.	尾見敦子(2015) 諸外国に見る音楽教育における「幼小接続」—フィンランドとハンガリーの事例から—、川村学園女子大学研究紀要、第26巻、第2号、43-62.	尾見敦子(2013) コダーイ・コンセプトに基づく音楽非専攻学生のためのアカペラ合唱の教育実践、川村学園女子大学研究紀要、第24巻、第2号、15-31.	尾見敦子(2012) なぜ音楽の授業で読譜力が養われないのか—ハンガリーの音楽教科書が語るもの—、音楽教育実践ジャーナル、vol.9, no.2, 56-66.
真田 尊光	日本文化	准教授	高野山大学大学院文学研究科密教学専攻博士後期課程修了	高野山大学: 博士(密教学)・修士(密教学)、早稲田大学: 修士(文学)	仏教美術史	日本美術史	日本の美術(1)	日本の美術(2)	「唐招提寺伝衆宝王菩薩立像・伝獅子吼菩薩立像の造立意図」(『佛教藝術』第343号、毎日新聞社、2015年)	「大安寺伝馬頭観音立像の周辺」(『奈良美術研究』17号、早稲田大学奈良美術研究所、2016年)	「千住と美術—船津文淵関連資料もあわせて—」(『文化遺産調査特別展「美と知性の宝庫 足立」図録』、足立区立郷土博物館、2016年)	(共著)『芸術教養シリーズ2 日本の芸術史造形篇Ⅱ 飾りと遊びの豊かなかたち』(芸術学会、2013年)
山名 順子	日本文化	准教授	お茶の水女子大学大学院博士後期課程人間文化研究科修了	博士(人文科学)	日本文学(近代/近世)	国語科教育	日本文化専門演習Ⅲ(日本近代文学)	国語科教育法Ⅲ、Ⅳ	「国語科における(文部省唱歌)および(伝統的な年中行事)の利用の研究 —中学校における実践研究を通じて—」、『子どもを取り巻く家庭・教育・環境をめぐる研究』、川村学園子ども学研究所、2016.01	「山東京伝の読本・合巻における挿絵の変遷—『梅花氷裂』から『磯馴松金糸腰蓑』へ—(剛悪の趣意)を軸として—」、『読本研究新集』、読本研究の会、第8集、2016.07	「〈文学作品〉としての『少年の日の思い出』利用の研究—中学校における実践研究を通じて—」、『人文科学教育研究』、人文科学教育学会、第43号、2016.09	「中島敦『山月記』を読む—時代をみつめる作者の眼—」(二)、『川村学園女子大学研究紀要』第28巻、川村学園女子大学、2017.03
千野 裕子	日本文化	講師	学習院大学大学院 人文科学研究科日本語日本文学専攻 博士後期課程 単位修得退学	博士(日本語日本文学)	中古文学	物語文学	古典文学概論	日本文学史(古典)	『女房たちの王朝物語論』(単著)青土社、2017年	『三条西家本狭衣物語注釈』(共編著)勉誠出版、2019年	「王朝の女房たちと万葉集」(『現代思想』第47巻11号、青土社)2019年8月	「蜻蛉」「手習」巻の物語世界—女房の名と女郎花の和歌を媒介に—(『日本文学研究ジャーナル』第3号、古典ライブラリー)2017年11月
伊藤 純	日本文化	講師	早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程 修了	博士(人間科学)	民俗学	文化人類学	日本の祭りや儀礼	日本の伝統芸能	「民俗芸能」『新編立川市史 資料編 柴崎の民俗』立川市、2020年	「芸能を媒介とするネットワークの形成と自律的伝承の課題—三宅島神着天王祭を事例として—」(『儀礼文化学会紀要』6、儀礼文化学会、2018年)	「風流獅子舞文書にみる芸能伝承のダイナミズム—関白流・文挾流獅子舞を事例として—」(伊藤純・藤井紘・山越英嗣編『文化の遠近法—エコ・イマジネールⅡ』、言叢社)2017年	「文化財保護制度・ユネスコ無形文化遺産を通してみる「大日堂舞神楽」—その制度的展開と主体との関係に—」(『民俗芸能研究』60、民俗芸能学会、2016年)

令和2年度 教員の学位・業績等

教育学部 児童教育学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
小山 久美子	児童教育	教授	日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程後期単位取得満期退学	文学修士	言語学	英語教育	言語学入門	英語科教育法	「英語における分裂文再考—小説における使用と機能—」『川村学園女子大学研究紀要』第29巻第1号,2018年	「There構文の諸相と言語材料としての中学校英語教育における展開」『川村学園女子大学研究紀要』第28巻第1号,2017年	「広告における比喩的表現」(単)International Journal of Pragmatics vol. XVI, 2006年	『英語学用語辞典』(共)三省堂, 1998年
内海崎 貴子	児童教育	教授	上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程後期単位取得満期退学	文学修士	教育学(人権教育/ジェンダー平等教育)	女性学	教育原理	女性学	【著書】『新・教職入門』共著, 学文社, 2014年	【著書】『教職のための教育原理』編著, 八千代出版, 2015年	【著書】『教職のための道徳教育』編著, 八千代出版, 2017年	【著書】『スクール・セクシュアル・ハラスメント—学校の中の性暴力—』編著, 八千代出版, 2019年
田中 聡	児童教育	教授	中央大学理工学部	理学士	算数・数学教育	学校経営	算数	算数科教育法	小学校算数科指導の工夫(我孫子市立我孫子第四小学校における実践)『川村学園女子大学教職センター年報』創刊号	「我孫子市新任校長研修会」に関する実践報告(学校グランドデザインと信頼される学校づくり)『川村学園女子大学教職センター年報』第2号	「みんなでつくる地域の学校」千葉県総合教育センター『千葉教育』4・5月号NO625	「ふるさと我孫子の先人たち」我孫子市教育委員会教育総務部指導課
向野 光	児童教育	教授	千葉大学教育学部	教育学士	特別支援教育	キャリア教育	特別支援教育論	進路指導	高等特別支援学校における生徒指導に就いての一考察(千葉県における作業学習の編成を通して)『川村学園女子大学子ども学研究年報』第2巻第1号	特別支援学校における職業教育についての一考察(千葉県における作業学習の編成を通して)『川村学園女子大学研究紀要』第29巻第2号	教職課程履修者の教育実習に対する不安に関する一考察『川村学園女子大学教職センター年報』第1号	これからの障害者の雇用について『運輸と経済』第78巻 第9号
矢田 訓子	児童教育	准教授	東北大学大学院教育学研究科 博士課程満期退学	修士(教育学)	教育思想史	教育哲学	教育原理	道徳科指導法	【著書】『教師のための教育学シリーズ2 教育の哲学・歴史』共著, 学文社, 2017.	【著作】『ワークで学ぶ教育課程論』共著, ナカニシヤ出版, 2018.	「小学校の道徳教育におけるカリキュラム・マネジメントを見据えた指導及び指導案の検討—小学校高学年『A(1)善悪の判断、自律、自由と責任』の授業を中心に—」『川村学園大学研究紀要』第29巻第2号, 2018.	「相補的人間関係における教育の可能性—西洋における宗教生活の取り戻しの歴史—」『近代教育フォーラム』, 第19号、教育思想史学会, 2010.
加藤 美由紀	児童教育	准教授	日本女子大学大学院人間社会研究科教育学専攻博士課程後期単位取得退学	博士(教育学)	理科教育学	環境教育	理科	理科教育法	加藤美由紀(2015)「高等学校生物教科書に見られる自然保護から生物多様性保全への変遷」『生物教育』56(3), pp.94-110	加藤美由紀(2015)「中学校学習指導要領に見る保全教育の変遷と課題」『環境教育』25(1)pp.119-131	加藤美由紀(2017)『「多様性と共通性」の視点から捉える「生命」領域の学習への期待』『理科の教育』Vol.66, pp.19-22	加藤美由紀(2018)「校内の植物図鑑の作製とその活用について—小学校における生物多様性保全の学習と指導に関連して—」『人間研究』第54号, pp.43-52
寺岡 聡志	児童教育	准教授	東京学芸大学大学院教育学研究科 国語教育専攻修了	修士(教育学)	国語科教育学	保幼小連携教育	国語	国語科教育法	「語り手」に着目した「読むこと」の可能性『川村学園女子大学教職センター年報』第一号	【著書】「国語の問題解決学習ワーク小学校低学年」共著、学事出版 2016年	【著書】『「考える」国語』編著書、学校図書2014年—2017年	【著書】『音読詩集』編集委員、ぶんけい、2019年
松本 祐介	児童教育	准教授	筑波大学大学院博士後期課程体育科学専攻単位取得退学	修士(教育学)	体育科教育学	スポーツ教育学	体育科教育法	健康スポーツ論	小学校低学年の体育授業における捕球技能の習得—捕球動作の選択の学習とその効果—。(2013)スポーツ教育学研究,33(2):1-13.	小学校低学年における捕球技能向上のための学習プログラムの開発—動作の選択と体幹の移動に着目して—。(2010)日本スポーツ教育学会第30回記念大会プロシーディングス,pp.132-138.	Development of an assessment rubric for catching skill of the ball coming to the front of the body. (2012)North East Asia Sport Pedagogy Conference (国立台湾師範大学)	小学校低学年における捕球動作の学習必要性—学習の有無による捕球動作の相違から—。(2015)川村学園女子大学研究紀要,26(2):63-80
奥田 順也	児童教育	講師	国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程声楽専攻(イタリア歌曲)	修士(音楽)	声楽	音楽教育学	音楽	ピアノ実技とソルフェージュ	「小学校低学年における『声量』を重視した地声による歌唱に関する音声分析的アプローチ—歌唱の際のピッチに着目して—」(2016)『教育実践学研究』第19号(教育実践学会), pp.77-95.	「小学校低学年から小学校中学年を見据えた段階的な歌唱指導に関する検証—子供たちの歌う意欲と歌唱技能を観点として—」(2016)『玉川大学 教師教育リサーチセンター年報』第6号, pp.33-45.	「小学校低学年における鍵盤ハーモニカの運指を指導するための学習プロセスの構築とその有用性に関する研究—授業実践から得られたデータを用いて—」(2018)『教育実践学研究』第21号(教育実践学会), pp.51-75.	「小学校低学年の歌唱指導における『どなり声』の解消法に関する考察—実践事例に見られる傾向について—」(2015)『玉川大学芸術学部紀要』芸術研究6, pp.11-20.

令和2年度 教員の学位・業績等

生活創造学部 生活文化学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
藤原 昌樹	生活文化	教授	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程 満期退学	修士(スポーツ健康科学)	スポーツ社会学	武道論	オリンピック論	ボランティア論	『スポーツボランティア養成事業の指針について』、共著、日本スポーツ産業学会第25回学会大会、2016.	『小学校教員養成における「コミュニケーション能力」を高める教科教育法に関する研究』、共著、株式会社ワードオン、2011.	『生涯スポーツと支援者』、日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報』第25号、単著、日本生涯教育学会、2004.	『保健指導のすすめ方』(養護教諭のための実践教育保健学講座第11巻)、単著、出版科学総合研究所、1985.
渡邊 昭彦	生活文化	教授	東京大学文学部、東京医科歯科大学医学部医学科	文学士(文学)、医学士(医学)	児童青年精神医学	司法精神医学	精神医学、臨床心理学特殊講義	精神医学特講、精神薬理学(大学院)	心気症と精神分裂病(共)精神科治療学	児童思春期のヒステリー再考(共)精神科治療学	障害者心理学(共)健帛社	カプラン・臨床精神医学ハンドブック(第四版)(共)メディカル・サイエンス・インターナショナル
今井 久美子	生活文化	教授	女子栄養大学栄養学部栄養学科実践栄養学専攻	博士(医学)	栄養教育・指導	食文化	栄養指導論	臨床栄養学	【著書】(共著)今井久美子:研修医・医学生のための症例で学ぶ栄養学/折茂英生、勝川史憲他編。pp59-63、建帛社、2017年	【著書】(共著)今井久美子:三訂栄養指導論(Nブックス)/相川りゑ子編。pp74-77、pp147-150、建帛社、2020年	【著書】(共著)今井久美子:知る! わかる! 身につく!! 公衆栄養学 第二版/逸見幾代編。pp83-92、pp95-101、pp155-165。同文書院、2020年	【論文】アクティブ・ラーニングによる食育普及活動の実施 -「親子でキッチン・ワクワクおにぎり」を介した家庭料理伝承の試み-。共著、査読有り、川村学園女子大学 子ども学研究年報、3巻1号。p1-11、2018年
大坂 佳保里	生活文化	教授	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 修士課程 スポーツ健康システム・マネジメント専攻修了	修士(保健学)	食品加工学	食生活・文化	食品加工学	食生活論	【著書】食べ物と健康(食品学各論)(共著)「八千代出版」	【著書】地域食材大百科(共著)「農山漁村文化協会」	【論文】家庭環境が小・中学生の食習慣に及ぼす影響(共著)、子ども学研究年報「川村学園女子大学」第1巻第1号pp.15-20(2016)	【論文】家庭環境が子どもの朝食時の欠食に及ぼす影響(単著)子どもを取り巻く家庭・教育・環境をめぐる研究pp.13-22(2016)
高橋 裕子	生活文化	教授	京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術環境専攻修士課程	修士(芸術)	生活造形	被服構成	被服学概論	リメイク演習	「大学の教科書にみる被服学の変遷」単著、川村学園女子大学研究紀要第29巻第2号、187-200頁	「中学・高校の家庭科教育における被服学の現況と課題」単著、川村学園女子大学教職センター年報、第1号、243-255頁	日本伝統手工芸 第16回 巧技ソサエティー美術展 <奏炎> 東京都議会議長賞受賞	「巧の技・極みの煌めき」共著、(株)美術年鑑社発行
永嶋 久美子	生活文化	教授	昭和女子大学大学院生活機構研究科博士後期課程生活機構学専攻修了	博士(学術)	調理科学	食教育	調理学	給食管理実習	【著書】『一食献立による調理実習25 第2版』共著、医歯薬出版、2016年	【著書】『Nブックス 実験シリーズ 調理科学実験』共著、建帛社、2009年	【著書】『新時代の栄養教育実践』共著、同文書院、2011年	【論文】「大学生の偏食行動様式別食習慣および健康習慣の実態」共著、日本公衆衛生雑誌、第49巻、第5号、pp.447-455、2002年
高山 啓子	生活文化	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻	修士(人文科学)	社会学	コミュニケーション論	社会学	観光社会学	『文化の社会学—実践と再生産のメカニズム—』(宮島喬編)(共著)有信堂1995年5月	『語る身体・見る身体』(西阪仰・山崎敬一編)(共著)ハーベスト社1997年12月	マイケル・リンチ『エスノメソロジーと科学実践の社会学』(水川喜文、中村和生、浦野茂、前田泰樹、高山啓子、岡田光弘、芦川晋 訳)(共訳)頭草書房2012年10月	「協同作業場面の身体配置—通信指令室における社会空間の構成—」(単著)『年報社会学論集』10号157-168頁、1997年6月
齋藤 美重子	生活文化	准教授	日本女子大学大学院家政学研究科生活経済専攻修了	修士(家政学)	家政学・家庭教育	家庭教育	社会生活入門	消費生活論	【論文】単著「消費者市民社会に向けたアサーション・ディベート授業」(査読有)『消費者教育』第39冊、日本消費者教育学会、2019	【論文】Mieko SAITO, Midori OTAKE, 他5名, Studies of Home Economics around the World and MDGs, (査読有), The Journal of Asian Regional Association for Home Economics(ARAHE), Volume 25・Number 4・2018	【論文】単著「農業体験学習の目標と学習連携—「食」「農」「環境」をつなぎ、生活に活かす学びに向けて—」(査読有)『日本教科教育学会誌』、第40巻2号、日本教科教育学会、2017	【著書】『生きる力をつける学習—未来をひらく家庭科—』、共著、教育実務センター、2013
佐久間 美穂	生活文化	准教授	日本女子大学大学院人間社会研究科博士前期課程修了	修士(社会福祉学)	社会福祉		社会福祉	相談援助	『中心と周縁-タイ・天草・シカゴ』、共著、春風社、2013	『戦後小樽の軌跡』、共著、春風社、2017	『新版 家庭支援論』、共著、一藝社、2018	「創造的社会的構築とコミュニティー郊外型コミュニティの現状と課題に関する考察を通じて」(単著)『東北都市学会研究年報』Vol.15-16、東北都市学会、2016
佐々木 唯	生活文化	准教授	奈良女子大学大学院人間文化研究科生活環境学専攻	博士(学術)	住生活学	建築計画	住居衛生	生活デザイン論	『住まいのデザイン』(共著)朝倉書店、2015	Dwelling Style in Response to Society 5.0,川村学園女子大学研究紀要,第31巻第2号,2020	住教育の視点からみた住生活の自立と住環境整備—家庭・地域の連携による住教育と住宅支援—、文教大学生生活科学研究第42集、2020	越谷の蔵を活かした住文化の継承—住まい・まち学習の実践と課題—、文教大学教育学部紀要第53集、2020
佐藤 真弓	生活文化	准教授	お茶の水女子大学大学院 家政学研究科 家庭経営学専攻	修士(家政学)	家政学原論	家庭経営学	現代の社会	家庭経営学	『生活と家族—家政学からの学び』(単著)—藝社、2016	『家族と生活—これからの時代を生きる人へ』(共著)創成社、2013	THE USAGE OF CELL PHONES AND THE FEELING TO THEM IN MODERN JAPANESE COLLEGE STUDENTS (共著)2010, JOURNAL OF HUMAN ERGOLOGY Vol.39, No.1, pp.23-33	『若手研究者が読む』『家政学原論』2006』(共著)家政教育社、2006
築館 香澄	生活文化	講師	大妻女子大学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻 修了	博士(生活科学)	食生活学	食品科学	基礎栄養学	ライフステージ栄養学	学術論文「γ-アミノ酪酸(GABA)の摂取が繰り返しのストレス下のラットの肝臓および脳のGABA代謝に及ぼす影響」日本家政学会誌、63(6)、293-299(2012)	学術論文「茶の淹れ方による旨味の味認識装置による評価」日本調理科学会誌、46(4)、281-286(2013)	学術論文「茶の旨味におよぼす水質(特にCa)の影響と味認識装置による評価」日本調理科学会誌、47(6)、320-325(2014)	著書「茶の事典」朝倉書店(2017)
甲山 恵美	生活文化	講師	女子栄養大学大学院栄養学研究科栄養学専攻修士課程修了	修士(栄養学)	食品化学	調理科学	食品衛生学	応用調理学実習	「キノコは冷凍に適しているか」(共著)日本食生活学会誌 第26巻、第1号、p.11-19(2015)	「親子に対する食育普及活動の実践-千葉県推奨「グー・パー食生活ガイドブック」を活用して-」(共著)川村学園女子大学子ども学研究年報 第2巻、第1号、p.1-6(2017)	「千葉県における食育活動から垣間見た親子の食生活—食育講座に参加した親子の食生活調査から—」(共著)川村学園女子大学子ども学研究年報、第2巻、第1号、p.7-15(2017)	「手作りキャラクター弁当の菌数測定から子どもの食を考える」(共著)川村学園女子大学子ども学研究年報、第1巻、第1号、p.35-39(2016)
叶内 茜	生活文化	講師	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科学校教育学専攻 修了	博士(教育学)	家庭科教育学	保育学	女性健康学	保育実習演習	【著書】『家庭科教育(教科教育学シリーズ第7巻)』(共著)、一藝社、2015.	【論文】「中学生における幼児とのかかわり方と心情の関連—幼児とのふれ合いを拒否した生徒の事例に着目して—」(共著)、日本家庭科教育学会誌、58(3)、164-171.2015.	【論文】「乳幼児を持つ保護者からみた中学生ふれ合い体験の効果と課題—保育園保護者へのアンケート調査から—」(共著)、保育と保健、25(1)、44-48.2019.	【論文】「体験内容の違いからみたふれ合い体験での学び—ナラティブの場面分析から—」(単著)、児童学研究、43.44-53.2019.

戸田 聡子	生活文化	助手	川村短期大学卒	準学士								
依田 菜那子	生活文化	助手	川村学園女子大学 生活創造学部 生活文化学科	学士(社会学)								
平中 菜摘	生活文化	助手	東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科 管理栄養士専攻	学士(応用生物化学)								

令和2年度 教員の学位・業績等

生活創造学部 観光文化学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
西川 誠	観光文化	教授	東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退	文学修士	日本近代史	日本政治史	日本史概説(2)	日本史(1)	『日本政治史の新天地』(共著)(吉田書店、2013年)	『史料を読み解く4 幕末維新の政治と社会』(共著)(山川出版社、2009年)	『日本立憲政治の形成と変質』(共編著)(吉川弘文館、2005年)	『山縣有朋関係文書』全3巻(共編)(山川出版社、2004～2007年)
戸澤 純子	観光文化	教授	日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(心理学)	知覚心理学		心理学	情報処理	ポテンシャル知覚心理学(共著)(サイエンス社)2017年	認定心理士資格委員会(編) 実験・実習で学ぶ心理学の基礎(共著)(金子書房)2015年	教育心理学(共著)(弘文堂)2014年	心理学概説(共著)(啓明出版)2014年
田中 実	観光文化	教授	インディアナ大学大学院応用言語学科	文学修士(英語学)	応用言語学	認知意味論・言語学	観光文化アメリカ	観光文化アジア	"A Persistent Role of Learners' L1-Knowledge in the Acquisition of Lexical Terms of a Second Language"『英語展望』(ELEC Bulletin)1992年春号(No.98)(1991年度ELEC賞 B部門(英語教育及び英語教授法に関する研究論文)受賞論文)	「Anyのコアの意味」(2010)川村学園女子大学研究紀要 第21巻第2号	『応用言語学事典』編集コーディネーター・原稿執筆 研究社 2003	『Eゲイト英和辞典』原稿執筆 ベネッセ・コーポレーション 2003
丹治 朋子	観光文化	教授	立教大学大学院観光学研究科観光学専攻博士課程後期課程	修士(社会学)	ホスピタリティ・マネジメント	観光学	ホテル・マネジメント	観光概論	『外食産業経営』『観光経営学』(岡本伸之編)(共著)朝倉書店、2013年10月	『観光地のホスピタリティ』『観光まちづくりのマーケティング』(十代田朗編・共著)学芸出版、2010年10月	『フードツーリズム』『観光の事典』(白坂蕃他編)(共著)朝倉書店、2019年4月	『アミューズメント都市東京』『江戸東京まち歩きブック—東京シティガイド検定公式テキスト』(東京観光財団編・出版)(共著)、2017年4月
柳川 悦子	観光文化	教授	立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科ホスピタリティ・デザイン専攻 修士課程修了	経営学修士	観光マネジメント 人材育成	観光インターンシップ	観光の情報デザイン(1)、(2)	旅行事業論	科研基盤C 課題番号:24520583 報告書「アジア系外国人社員の早期離職を防ぐためのアクションリサーチ:文系総合職の場合」(共著) 早稲田大学日本語教育研究センター平成27年3月	『アクティブ・ラーニング型のキャリア教育実践～企業の人財戦略『ダイバーシティ&インクルージョン』の学習体験を通じて』(単著)『観光ホスピタリティ教育 第7号』日本ホスピタリティ教育学会 平成26年3月	『日本のホスピタリティ産業におけるコーポレート・ユニバーシティの普及と進化』『第27回日本観光研究学会全国大会学術論文集』日本観光研究学会 平成24年12月	『インターンシップの補完プログラム可能性と課題～埼玉県版ジョブシャドウイングモデル事業の導入を通じて』(共著)立教大学紀要第14号 立教大学観光学部 平成24年3月
松井 浩	観光文化	准教授	青山学院大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士前期課程修了	工学修士,工学士	情報科学	ネットワーク利用技術	情報処理(1)(2)	情報メディア演習	【著書】『MS-WORKS機能百科』単著.技術評論社	【著書】『MS-DOSテキストデータ料理学』共著.翔泳社	【著書】『PC-98全生活の知恵』共著.翔泳社	【論文】計量経済分析用アプリケーションTSPのインストール.単著,青山コンピュータサイエンス,青山学院大学情報科学研究センター
種村 聡子	観光文化	講師	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 修了	修士(経営管理学)	人的資源管理	人材育成	キャリア・プランニングⅢ	観光経営	『ケーススタディ 地域活性化の理論と現実』,2017, 同文館出版, pp.86-133.	『地域人材としての観光人材育成プログラムの検討と課題』,『第31回日本観光研究学会全国大会学術論文集』,2016, pp.457-470.	『観光地域における人材育成プログラムの検討—いしかわ観光創造塾の事例—』,『第32回日本観光研究学会 全国大会 学術論文集』,2017, pp. 317-320.	『越境学習における効果—武蔵大学三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの事例—』,『人材育成学会 第15回年次大会論文集』,2017, pp. 33-38.
中山 穂孝	観光文化	講師	大阪市立大学大学院文学研究科人間行動学専攻地理学専修後期博士課程単位取得退学	博士(文学)	人文地理学	観光研究	観光地計画論	世界遺産(1)(2)	『近代温泉観光地の形成と都市開発—大分県別府市を事例に—』(単著・査読有)人文地理67-2,p126-141,2015年.	『近代熱海における温泉資源と別荘地開発による観光都市の形成—開発者に着目して—』(単著・査読有)都市と社会3,p88-103,2019年.	『戦後復興と国際観光都市の形成—静岡県熱海市を事例に—』(単著・査読有)温泉地域研究32,p12-24,2019年.	『和歌山県新宮市におけるニューツーリズムの進展』(共著・査読有)地理学論集94-1,p1-10,2019年.